

在外部隊情報綴

防衛研修所戦史室  
第二復員局業務處理部  
第二分室

③  
全册

250

0309

速報第七一號

昭和二十一年一月九日

復員廳第二復員局總務部總務課在外部隊調査班

「マツツ」島ノ陥落

(歸還者談)

### 調査班長

一、所在部隊

### 第四

海軍々屬

舞鶴工廠派遣員

西村接手以下二三名

(電探設置工事ノ爲「キスカ」島ヨリ臨時派遣セラレタリ)

陸軍軍屬

約一五〇名

陸軍軍人

約三〇〇名

合計

約三〇〇名

二、交戦情況

一八一五一一〇

陸開始、米軍ノ一部隊、マナオカ一週ニ接近セシガ三谷少尉ノ部隊、

約五〇名、機銃二挺ヲ附ス、退却セラル。

其ノ后ニ方向ヨリ大部隊上陸ス

之迄顯著ナル戦線ノ變化無シ、我力軍ノ戦死者若干キ模様ナリ。

戦況ニ活況ヲ呈シ我力軍續々後退

山崎部隊主力移動「馬ノ背」

「馬ノ背」奪取セラル

(約一〇日間)

五、二二二

五、二二四

一、二七

主任

手書き署名



0310

五二二八一七八〇〇 部隊ハ「熱田灣」ニ出テ夜ヲ組立テ救援ヲ待ツ途ニ來ラズ

二九二二〇〇〇 自ラ動ケルモノニ〇三大隊陣地ニ集合皇居ヲ遙カニ拜シ莫オクニ唱暗夜ニ

行動ヲ起ス

山崎大佐以下約六〇〇名ハ大部分「熱田富士」山 或ハ旭日灣附近ニテ夜ノ裡ニ玉碎セリ

其ノ后

六月未迄若干ノ生存者ハ逆撃戰ヲ續行活躍セリト言フ

一八二七一月中旬

生存者「テダク」島ニ送ラル

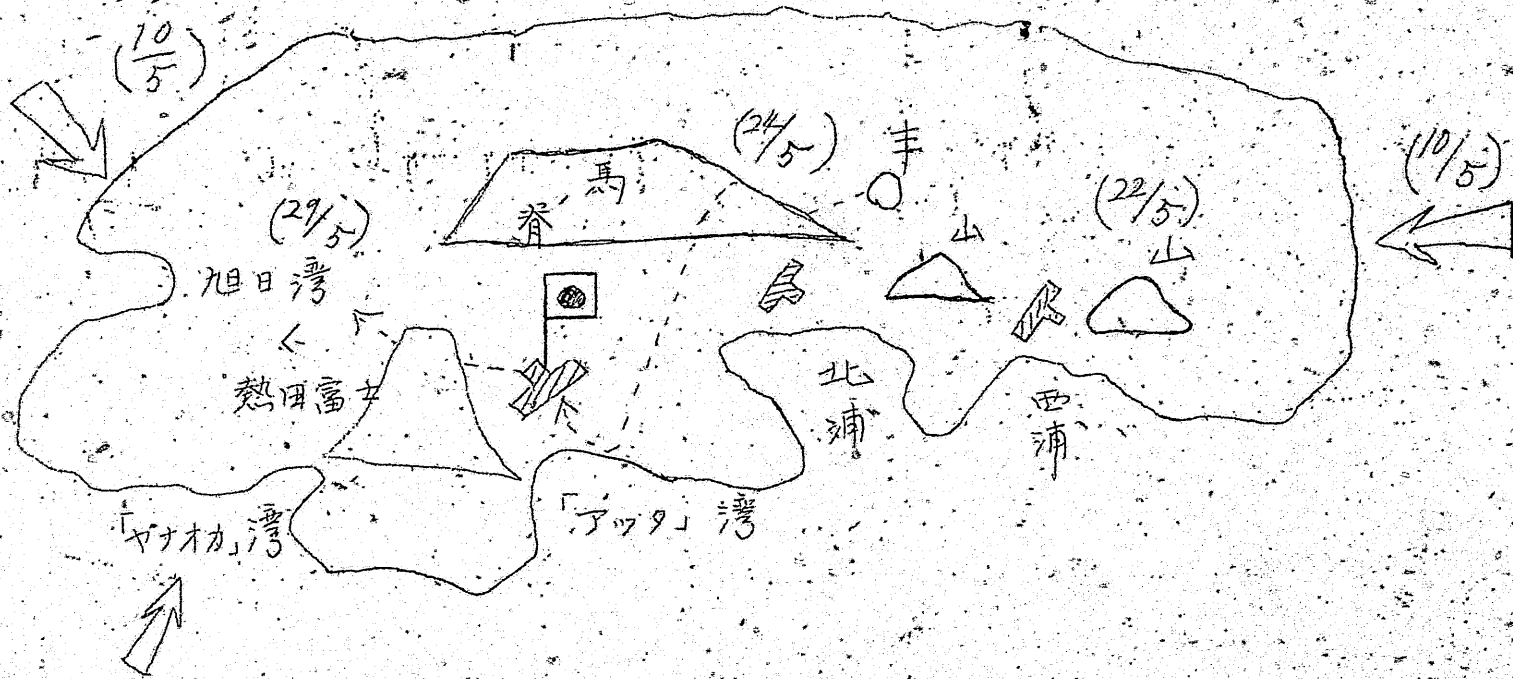
三生存者

陸軍々人二六名、海軍軍屬一名總合計二七名ナリ、米本國「ハワイ」ヲ經由歸還途上ニアリ

(終)

「アツツ」島 俯瞰図

(方向不明、 歸還者、 記憶 = 依ル)



0312



# 史實班長

速報六九號

昭和二十一年十一月五日

復員廳第二復員局總務部總務課在外部隊調査班

エヌエタツク（マーシャル群島）ノ陷落

（歸還者ノ談ニ依ル）

## 一 戦斗概要

昭和一九年敵迎撃前兵力ハ陸軍約二〇〇〇名海軍軍人航空隊關係約三〇〇名警備隊關係約三〇〇名計六〇〇名軍艦半島人約三〇〇名内地人約八〇名計三八〇名他「アサカ」丸ニテ「クエセリン」へ輸送中ノ三久經人夫約三〇〇名アリ

昭和一九年一月二十九日ノ初空襲ヲ以テ始マリ二月一日ノ敵上陸迄

二月十一日ヲ除キ連日空襲ヲ受ケタリ（小型機五〇機乃至六〇機ニテ一日五回）

二月十八日未明二十四時間ノ艦砲射撃ノ后上陸ヲ敢行セリ

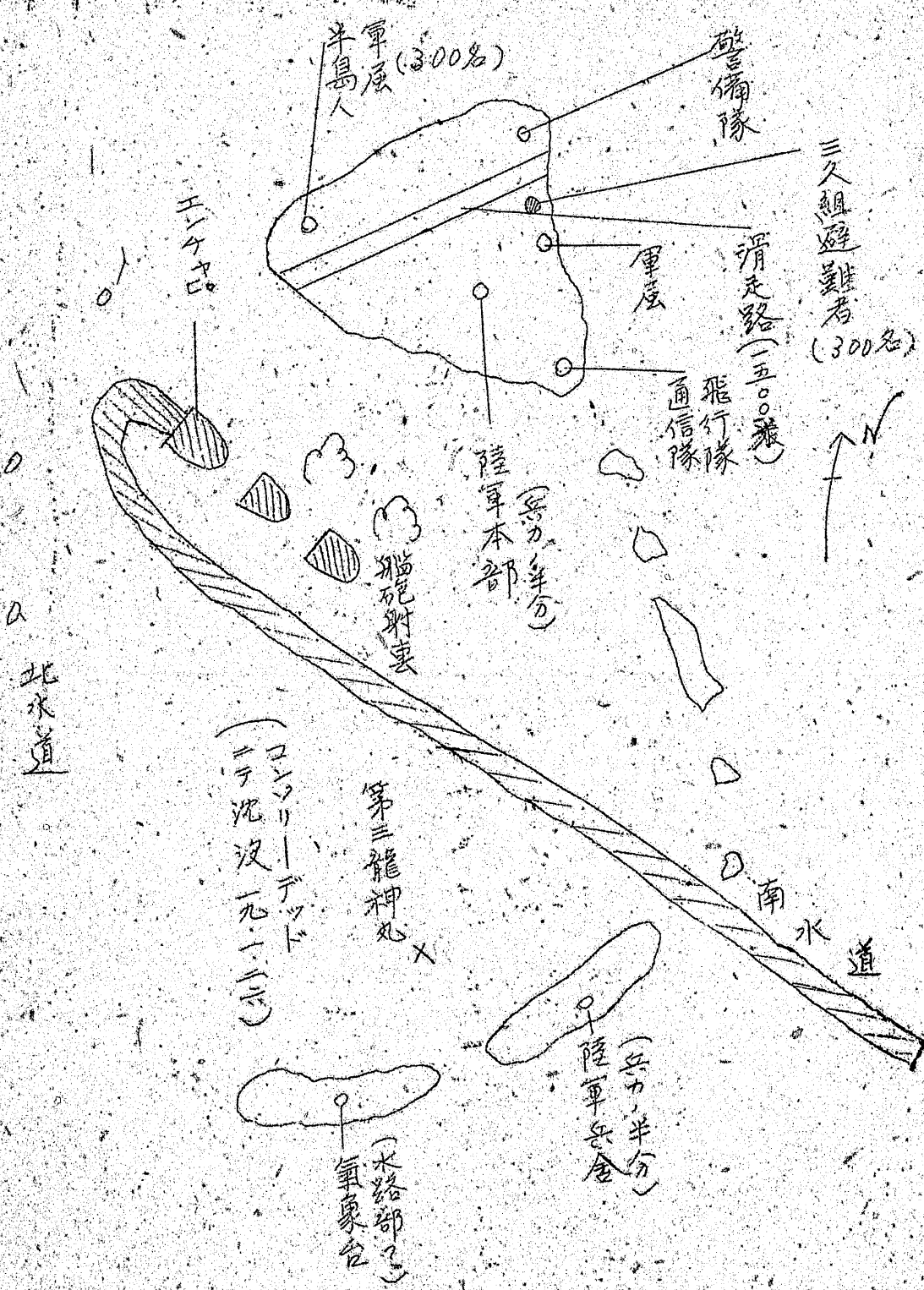
（同島ノ敵攻撃狀況別圖ノ如シ）二月十九日全滅狀況トナレリ

## 二 生存者

（今般歸還）

陸軍々人七名海軍軍屬一名三久經一三名以上ヲチャビ

陸軍々人一四名以上エヌエタツク 計三五名



0314

回覽

在外部隊狀況速報第七二號

昭和二十一年十一月十一日

復員廳第二復員局總務部

庶務主任

21.11.24 第 號

史實班長

第四

比島第一〇三經理部狀況

第五

元第一〇三經理部長白石孝繁（高知縣安藝郡西分村）氏報告ニ依ル同部隊ノ狀況左ノ通

第三

一、昭和二十年一月呂宋島ニ對スル米軍ノ上陸間近キ情況ニ於テマニラ方面海軍部隊ハ海軍少將岩淵三次ノ率フル戰鬥員約八〇〇〇名ヲ以テマニラ防衛部隊ヲ編成シ「マニラ」ヲ死守、非戰鬥員約七〇〇〇名（内約半ハ臺灣人工員）ハ「パヨンボン」防衛部隊ト命名五ヶ大隊ニ編組シテ「カガヤン溪谷パヨンボン」北方約五軒「ソラノ」附近ニ集合ヲ令ケラル。指揮官一〇三工作部長早川少將（大河内長官一行ハ一月六日マニラ發ハキオニ向ヘリ）

第二

一〇三經理部ハ當時部長以下約一五〇名ナリシガ内、龍ヶ野主少佐、岡田主大尉、島谷主少尉、濱松主少尉、服部主少尉以

下理專生二〇名ハ「マニラ」ニ殘置同防衛部隊ニ協力セシメ、  
 中佐、去田剛主大尉、井村主計中尉以下、理專生約四〇名、  
 六〇名ハ「カバツアン」方面海軍部隊ニ協力セシメタリ。  
 白石部長以下、理專生約四〇名、計七〇名ハ「イラガン」方  
 面ヨリ食料ヲ取得シ、ボヨンボン防衛部隊ニ對スル補給ヲ擔當セリ。  
 米軍ハ六月八日カガヤン盆地南端オリオ峠ヲ突破、六月十四日「カバツ  
 アン」六月十九日イラガン附近ニ達ス。  
 爾後「イラガン」本部ハ同地東方約二〇軒山中ノ小盆地ニテ、  
 テ講ジ食糧事情ニ比較的良好ニシテ、中途ヨリ海入セル陸軍  
 數名ヲ合シ終戰後二十年十月初旬下山一サシ、フニルナシ、  
 ニ入り、同本部ノ消息ハ完全ニ分明シ、所要ノ向ニ報告セ  
 主少佐以下及總代任主計中佐以下ノ兩支部ノ狀況ニ關シテハ  
 判明シ非ズ。  
 「マニラ」ハ殘置セル視ヶ野支部ハ「マニラ」撤退後東海岸「インフ  
 アンタ」方面ニ出テ相當ノ海海難アリタルモノノ如シ。  
 「カバツアン」方面總代任支部ハ「カガヤン」盆地西方山地ニ  
 潜入セ

ニ在リシ

ルキノト思ハルルキ「サン、フエルナンド」收容所ハ一人ヲ收容セ  
ラレアラズ  
兩者共「マヒラ」收容所ニ就キ調査ノ要ナルモノト認ム

(終)

0317



# 史實班長

海軍七〇號

昭和二十一年十一月五日

復員隊第二復員局總務部總務課在外司令部班

ルオット島(マーシャル群島) 佐伯

(歸還者ノ課ニ依ル)

## 一 所在部隊

所在部隊ハ全部海軍ニシテ

ウエツト島陸軍隊 約四〇〇名

山田部隊(航空隊) 約一五〇〇名

藤原部隊友村班(陸軍隊) 約八〇〇名

只木部隊(航空隊) 約二〇〇名

軍醫部 約二〇〇名

計約三〇〇〇名

右ノ内軍人約一九〇〇名ニシテ軍醫部一〇〇名中

朝鮮人約一五〇名乃至二〇〇名ナリ

## 二 戦闘概要

(1) 昭和十八年一月五日午前四時ヨリ七時迄は敵機が島に小規模三〇〇乃至五〇〇機ノ一

波ニ亘ル空襲ヲ受ケ

砲〇〇〇屯級ノ輸送船二隻ヲ海中攻撃シ二十機戦闘機が二十機燃焼炎上ノ被害ヲ受ケタリ

(1) 昭和一九年一月二〇日頃大型機約一〇機ノ晝間空襲

(2) 同 一月二二日夜間空襲

(3) 同 一月二九日大型機ニ依ル朝ヨリ夕刻ニ渡リ「リレー」式爆撃開始以テ土陸作

戦ノ緒ヲ断ケリ

明ケテ三〇日三一日、二月一日ト三日間ニ亘リ毎日延四乃至五〇〇〇機ノ爆撃ヲ受ケ島

ハ變形ヲ來シ大部分ノ者ハ戦死セリ

二月二日ノ午後艦砲射撃ノ援護入下ニ離島ニ上陸海岸ヲ渡リ本島ニ約二ヶ大隊上陸大体

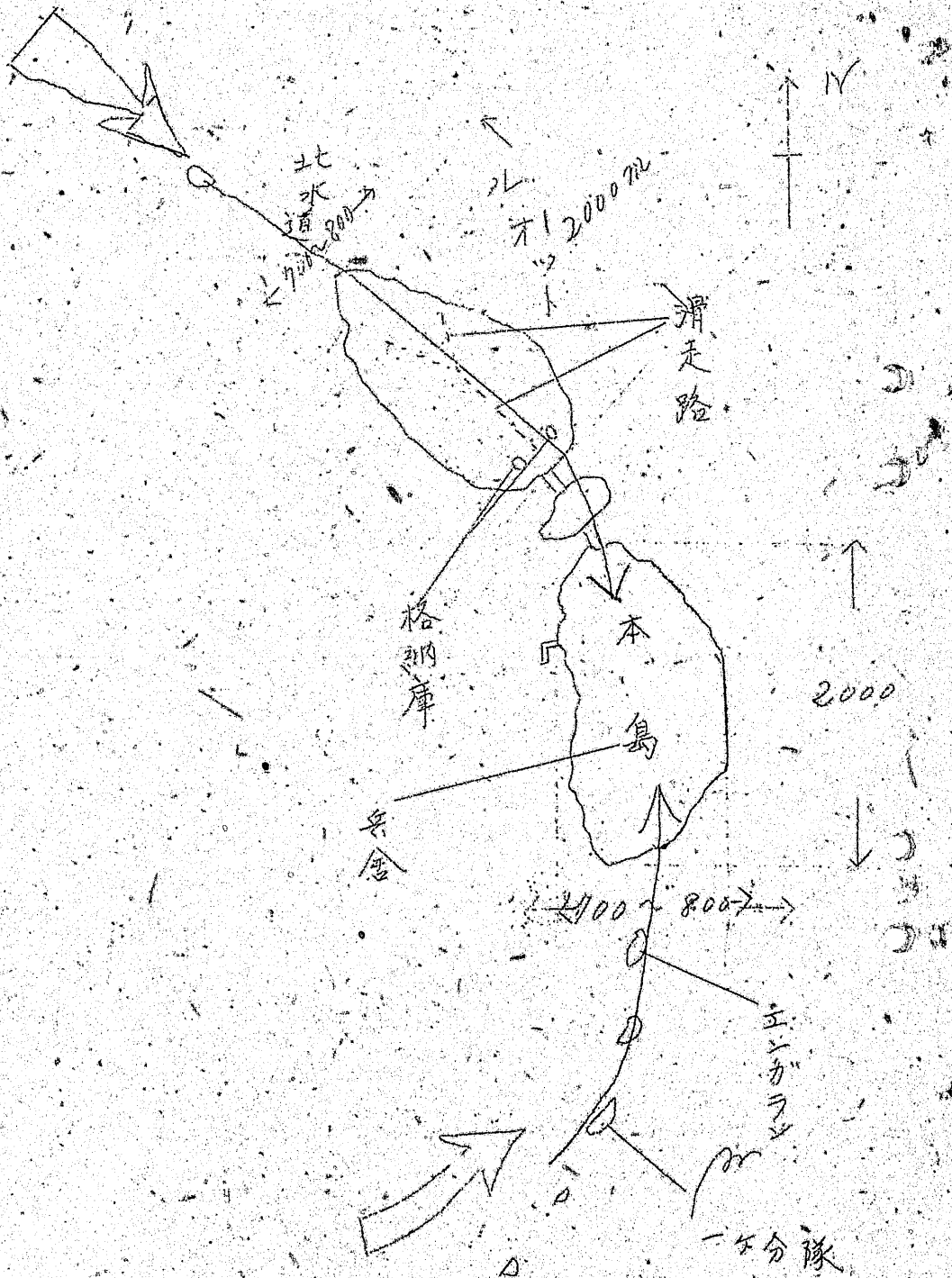
二月四日頃ヲ以テ掃蕩完了セリ

### 三、生存者

生存者ハ十一名ニシテ軍人三名(下士官二名兵一名)軍醫八名其ノ中五名ハ既に歸還今回

五名歸還殘リ一名栖崎文義(兵庫縣航空廠)ハ「ハワノ」殘留次便ニテ歸還ノ予定ナリ

(終)



0320

守備軍通信隊戰鬥  
經過概要

通信長職務執行

海軍大臣

越川廣吉

第二復員省

0321

大復原簿第一〇号

復員廳第二復員局史料整理部史實調査課長 殿

函 館

上陸地連絡所長



印

戦 歴 調 査 書

戦	配 属	期 間	郷 録 (連絡先)	舊 所 場 所	終戦直前ノ配置	官 氏 名
				占守海軍通信隊	占守海軍通信隊	越川 廣吉
同一方面ニテ作 戦セシ陸軍部隊	占守海軍通信隊	昭和十九年八月十日 昭和二十年九月三日				
同一方面ニテ作 戦セシ陸軍部隊	五十一警備隊北東航空隊占守通信隊					
主要作戦名 期 間	七十三旅團					
	別ニ無シ					

0322



<p>※ 戦訓所見</p>	<p>歴</p> <p>※ 戦闘経過ノ概要 (註) 記述内容 一 時 二 交戦彼我兵力 三 交戦ノ概要 四 戦果 被害 五 部隊ノ轉進 持久對策等</p>
<p>停戦命令ヲ爲シ戰鬥ニテハ味方ノ兵力ニ比シ敵兵カ少キヲ以テ戰鬥ヲ繼續スルニ必ズ勝ノ事ト思ハル</p>	<p>別紙ノ通</p>

(註) 一 記註者 准士官以上總員 准士官以上ナキ部隊ニ在リテハ下士官兵中先任者

二 印ヲ附シアル項目ハ本欄ニ記入ノ餘白ナキ時別紙ニ記入スルコト

別紙

時期

昭和二十年八月十九日 一〇、〇〇頃

交戦後我兵力

占守通信隊五十一警備隊北東航空隊一、二〇〇名其他陸軍七十三旅

陸軍約二、〇〇〇名

交戦ノ概要

昭和二十年八月十五日フテヲ放送ニ依リ大略ノ終戦ヲ知ルモ八月十九日ソ軍艦艇出現一九、〇〇頃艦艇射撃アリ我方ニ被害ナカツタ第一回ソ軍國端輪ニ上陸ノ報ニ依リ占守通信隊五十警備隊北東航空隊一、二〇〇名其他陸軍部隊七十三旅出ト共ニ應戰撃退シタ同日時間不詳ソ軍約二、〇〇〇名國端輪附近ニ上陸若干應戰シタカ停戦命令ニ依リ反攻停止爾後引續キ上陸シタカ我方被害ナカツタ北東航空隊ヨリ艦攻機一機偵察爆撃ニ出撃十九日敵輸送船一隻自爆爆撃ニ依リ撃沈シタト思ハルルモ務ト暗夜ノ為確認シ待ナイ八月十九日時間不明ナルモ一通信コレニテ止ム一電報發信後我軍ノ手ニ依リ通信装置破壊以後連絡ハ杜絶

海軍

四 戦果及被害

シタ  
輸送船一隻撃沈我方被害ナカツタ

五 部隊ノ轉進持久對策

戦斗配直ヲ王トセル隨道深サ二〇〇米ノモノ作製シ内部ハコンクリー

ト鐵筋ニシテ受信器約六十臺送信器約十七臺戦時治療室糧食倉庫炊爨

所病室等モアリ

電動送風機ニ依リ隨道内ノ換氣ヲ實施シタ

食糧節約物資兵器愛護補歩品ノ補充等實施シタ

(終)

海軍

昭和十六年 双文併納

0325

記述者 田中春雄

中部太平洋方面(主トラトラス)戦牛ニ関スル帰還報告

元第四艦隊参謀 川又元中佐

昭和二年十月十日

陸史實調査部

一川又中佐略歴

戦争前ヨリ佛印ニ駐在後 14年参謀トナリ南洋戦ヨリ獲胎島海ニテ  
「シカポ」ニ攻略戦其他ニ参加 後 艦本ニ入り一年半内地ニ入り

駐任機直ニ

一人ニ一 附四艦隊参謀トナリ 二日出発 マリニヤル方面(名カシ  
ルオット等)ヲ視察 一九二一トシヨリ着 以来終戦迄 4年参謀トシテ

勤務 二二二二六日 浦賀帰還

二、昭和十八年末乃至一九年初期ニ於ケル4Fノ状況

ギルバート作戦直後ニシテ意気消沈シタリ。

長官ハ小林仁中將、参謀長 鍋島俊策少将

後原忠一中将、小林長官ト交替シ 4F長官トナヒタリ

一九一、末ノマーシャル海戦ヲ相吉ノシヨウラ受ケ、更ニ一九一七、末ノトモナ

空襲ヲ非常ナクシヨウラ受ケタル様ニ見受ケテタリ

三、一九二七日ノカ一次「トラック」空襲時ノ状況

1. 4F準備状況



防備状況ハ極メテ貧弱ニシテ人ノ這入ル位ノ穴が出来タ程度ニシテ物資  
等ノ隠蔽ハ皆無ノ状態ナリキ

當時 追風が度エシニ一五トウラ出港セル阿賀野が被害ヲ受テ那珂  
ヲ曳航セシメントシ 那珂ハニ七、〇〇〇出港セルモ阿賀野沈没ノ報ヨリ之ヲ

取止メ 寝ニ就キトシトルトキ 電探ニ依リヤノ来襲モツツアツテ知レリ

之ヨリ先ニ六、七噸敵機ノ偵察アリ又其ノ他ノ情報ヨリシテ敵機

昨ハ一日頃出港シ

動部隊来襲ノ算ラニ鑑ミ 警戒ヲ特別警戒カ一配備ヲ令セラレ  
數日ヲ過シタルモ異状ヲ認ムルヲ以テ前日ノ一日ニ之ヲ解キタリ

護メ

又 船政ニ係ル索敵モ二個處 米索敵線アリシモ之ヲ補足セザリキ

4

電探ニ依リ約三十分前ニ敵Y400ヲ捕捉シタルモ警戒ヲ解キアリタル状況  
 ナリシタメ邀撃機ノ戦斗モ意ノ如クナラズ又折トシテ八直ニ警報ヲ発令ス  
 ト共ニ在泊艦船ニ対シ島蔭等ニ分散避泊セシメタリ當時環礁内ニ  
 在リシ艦船ハ番取駆逐艦三隻及修理中ノ駆逐艦三隻アリ高船ハ  
 約二十數隻在リタリト記憶ス  
 敵Y400ノ攻撃目標ハ水上艦艇及飛行場ヲ主トシ七日陸上施設ニハ  
 殆ド損害ナカリキモ十八日ハ水上艦艇幾シララザルタメ陸上施設ニ若干ノ  
 損害アリタリ  
 一七日ノ空襲ニ依リ実働機約二八〇機外ニ相当数ノ組立未了ノYニ

其他特異特記事項  
 港

第二復員省

0329

甚大之損害ヲ受ケタリ、一七〇ニ於テ敵艦<sup>YDE</sup>ノ攻取ハ一〇〇頃ニ終リ  
ヲボレハ戦斗機が未接ニ来リタレハ一〇〇頃ニシテ睦機ヲ失シタリ

四 空襲ニ際シ被害大ナリシ理由

(1) 判断ヲ誤リテ警戒ヲ怠ラシキニシテ

(2) 索敵が不完全にナリシニシテ

(3) 當時トラス<sup>26Sf</sup>ニハ<sup>22ノ一部及26Sfアリシ</sup>作戦時ニ於テ在任分擔ノ明確

ナラカリシニシテ(例、<sup>26Sf</sup>ハ通常人<sup>PTF</sup>ノ指揮ヲ受ケ作戦時<sup>26Sf</sup>全所ノ指揮ヲ受ケ等)

(4) 氷上部隊ノ先任指揮官ハ香取艦長ナリシモ<sup>PTF</sup>ハ平安丸ニ將校

ヲ掲ゲ 實際ハ陸上ニ在リ、指揮系統明確ナラカリシニシテ

五、第一次空襲以後ノ状況

舟楫関係ニシテ、長官、幕僚等ノ交替アリ

四、松船團等ノ輸送アリテ部隊ノ増強行ハタルモ輸送船ノ被害等ノ  
又、陸軍ハ予定兵カノ殆ト全部、武器彈藥等ハ約半、海軍詳細不明

古毛約半位ハ到着シタルモノト思考セラル  
四、糧食ヲ在印穴ニ格納スルニ在カラアゲ

六、分三、分三以空襲時及其以存ノ状況

四、三、九、最初ノ夜同空襲アリ、ニトテ電探捕促セズ、其ノ後敵機ハ  
連續ニテ空襲セリ

四、分二、四、目ノヤ、四、ノ攻襲ハ、四、三、〇、アリタシモ、二ノ時機以後、現地自治態勢  
ノ強化ヲ計リ、其等ノ耕作ヲ實施シタシモ、收穫ノアリタルハ、二〇年ニナリテ

カヲナリ





(4) 特ニ左ノニ莫ハ左カヲ傾倒シ從事セリ

(1) 飛行場ノ機能ノ維持

(2) 砲ノ洞窟格納

施設部が糧食ヲ忘レテ從事シタルタメ大ニ成果ヲアゲタモ約五了大。〇〇人ノ  
炊不養生失調患者ヲ出シタリ程ナリ

七、南島補給状況

の各南島ニ對シ補給ハ考慮ヲ拂ヒタシモ、在所屬ノ當時外洋航行可能ノ船ハ

七〇〇ト、三〇〇トノ曳船各一隻ソレニ特掃五号、特馳五号ノミナリキ

ゆニ、大英艦隊ノ環礁内ニ對シ艦紀射撃アリタシモ砲糧食等ノ後動ハ  
格納等ニ完成セシ機能ナリシタシ被害モ少クサレテ心配モセガリキ

紀要ハ約ニ照回ミテ世評艦隊ヲ思ヒタリ

第二復員省

<p>④ 當時「エシカビー」三人 陸軍一ヶ聯隊、海軍一〇〇名、「モートロウ」二人 最初 陸軍一ヶ旅團、海軍四〇〇名在リテ陸軍一ヶ聯隊、海軍一〇〇名減シタルモ最後三聯隊</p>	<p>⑤ 各島島ノ食糧事情ハ「エシカビー」特ニ悪ク「ウオセ」「ナウ」「オーレヤン」「エシカビー」 「モートロウ」等モ悪ク之ニ及シ「ボナバ」「ヤル」「ト」等ハ自立可能ニシテ良好ナリキ</p>	<p>⑥ 各島島ノ對スル食糧補給</p>	<p>「エシカビー」「モートロウ」ニ對シテハ屢々之ヲ行ヒタリ 「エシカビー」ハ輸送船舶ノ被害ヲ考慮スルトキ之ヲ斷行スル勇氣ナク</p>	<p>實施出來サル狀況ニマケタリ尚ハ之ニ補給ハ二回實施セリ 「ボナバ」等ハ全無ニ行ハズ</p>
---	--	----------------------	---	---

0334



到着シ又終戦直前潜水艇(伊一四)ニ係リ彩雲二機(二機ハ細立未了)補給シタルニ違キズ

第一空軍艦ハ後ノ保有機材ハ水偵大機艦攻中攻等若干アリタルニミ  
ニシテ終戦時ハ唯三機ノミナリキ

飛行場ハ春島ノ一基地ニ基地及楓島ノ一五。米滑走路<sup>(未定)</sup>有ス  
飛行場ト合計三本ニシテ竹島飛行場ハ被害ヲ受ケタル故放棄セリ

水偵艦攻ハ「エンカビー」「モートロウ」<sup>ボナ</sup>等ニ対スル連絡用トシテ使用シタリ  
タリ

一、対陸軍固保

第二復員省

0336

食糧事情良好トシテ、円滑ニ行キタルモ、  
起リ之カ調整ニ苦勞セリ。

特ニ海軍ハ、夏島ニ人負集中シ、  
ラ得ントモ、陸軍ハ、  
仲々之ニ態セズ、

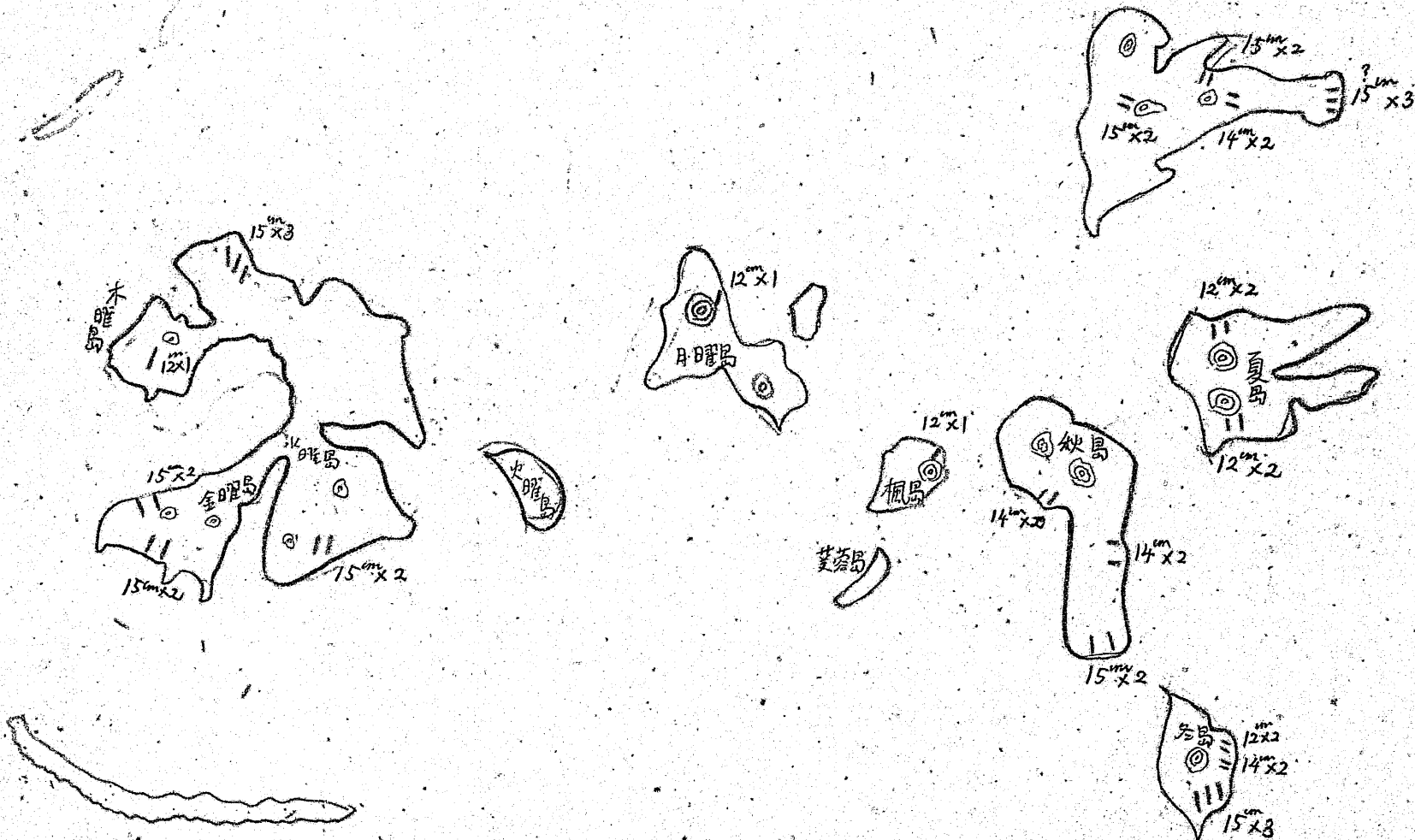
又、<sup>軍需</sup>島民ニ對シテ、食糧供給ニ對シテモ、  
陸軍ハ冷淡ニシテ、  
言辭ヲ弄スル者モアリ、  
中ニハ相當過激ナル

別紙 砲台配置略圖

(終)

終戦時砲配置状況略圖

別紙



0338





(四) 捷一編作戦發動後 馬公出港 二三日 ころこ入港

(三) 不才海戦ニ於て 21Bト第三部隊ト連絡不充分ニテ 相互、時間的

地點的、連絡不充分ナラス

(二) 突入前 レイテ湾、敵情ハ不明ニテ 後刻判明セル敵情 Bx4 Cx4

ソ他、ハ全ラ未知ノ終作戦發動セリ 從テ當時ノ我方トシテハ

敵、好餌アリト判断セリ コロコ出撃後 25日中 空襲ハ 11Bニ向テラレ 21Bハ

殆ド敵艦ヲ見ズ 第三部隊ヲハ 協同連絡 途ニテ

第三部隊ト連絡ヲ密ニスハク

(ホ) 21Bカオ 通峽時刻ヲ 0200/26ト線上げ 通峽カススルニ爲 視界狭カ

トナル 通峽直ホヨリ 我突入部隊ノ 敵艦方向地矣ヲ 報ズル 敵艦

信受セリ

2/S 1/Sdノ順單縱陣ニテ突入隊形ニテ時刻不詳約五分間砲撃ヲ受ケ  
阿武隈ハ砲ノ魚雷攻撃ヲ受ケ艦首命中12ktニ減速ノ儀全軍力ヲ失フ海峽

突入セリ

(ハ)右舷首ニ襲上中ノCラヒキモノBラヒキモノ各一貫見セリ  
當時ハ何レモ敵艦ヲ誤認ス

(ト) 舷上艦首ヲ那智ハ触衝 那智ハ減速ス

(四) 旗艦ヨリ2/Bハ一時反射シ後因テ策スハシハ電令ヲ受ケ反転ス被  
上中ナリシハ扶桑ニシテ甲板一面ニ襲撃タタルヲ認め  
當時ノ2/Bハ戦況判断ハ

第三部隊ハ全滅悲境ニアリ 如是 那智 阿武隈ヲ以テ 突入セシカ同

様ノ悲境ニ陥ル者必然ナリ 2/Bハ反転後「カカヤシ」ニテ 損傷狀ハ修整後

西洋金葉十三行野紙 (鈴木箱)

0341

コロンニ集結手定ナリ、帰役中24ノ30村編隊ノ空襲ヲ受ルルモ被害ナシ

(1)十月二十六日「コロン」着 那智「マニラ」ニ回航 返航「11B」ノ残リト「フルネ」ニ集結セリ

(2)足柄<sup>ノ</sup>「ハラマ」カマラン「サンジャク」ヲ経テ十一月初旬昭南ニ入港 尔後4fト行動ヲ共ニ

(ル) 尔後カマラン湾ニテ待機 十二月三十一日「サンホセ」

突入戦決リスル「カマラン」湾出衆 二六日一六〇。以後B一七「タクロバン」基地ヲ發

進ト推定シニ依リ接触ヲ受ル 二一。頃ヲ教艦ト交戦(予定突入時刻)

一時同ガニテd一沈没、大淀被爆 三二。次足柄、左舷機銃室上方ニ被爆

戦死者四名ヲ出セルモ、ソノ後突入決行 「サンホセ」湾「露ル」ヲ行フ 効果不明

改定終了後

帰途ニ就ク「カマラン」湾口ニテ敵ト交戦後同港入港 尔後「サンジャク」ヲ経テ

三向ノ被爆(一)

三向ノ被爆(二)

三向ノ被爆(三)

高米ノ巨艦ノ被爆(一)

二〇年一月一日 昭南着 一月九日 リニガ 部隊編入 同泊地ニテ訓練ニ終ル

(ウ) 七月 羽黒 神風ハリアニタマニ「ヨバル」方面ノ輸送ヲ渡例作戦中敵KABト交戦

(三〇〇〇〇二〇〇)

羽黒ハ沈没セリ 返板ハリニガ泊地ニ於テ敵潜水艦ニ依リ沈没ス (六月八日)

(ウ) リニガ泊地ニ於テ我海上兵力ハ 敵潜水艦ニ依リ沈没ス 敵潜水艦ハ我艦ヲ襲撃シ 我艦ハ沈没ス 敵潜水艦ハ我艦ヲ襲撃シ 我艦ハ沈没ス

輸送ヲ企圖スルニ飽シ 連本方面ト

作戦ノ趣旨ハ本土集中ノ敵兵力ヲシテ南方ニ牽制シタルニアリ

昭南附近水域ニテ機雷系ヲ設置スルニ特攻ヲ企圖セリ 昭南島防衛陸地戦

(カ) 2KAB「コカヤ」ヲ防イ作戦ニ奔走シ 應急時特殊兵器ノ考案ニモ努メタリ

昭南附近水域ニテ機雷系ヲ設置スルニ特攻ヲ企圖セリ 昭南島防衛陸地戦

二〇年六月セリタ軍港ヲ中心トシ海軍擔任 陸地戦陣地及反ト陸戦陣地攻防訓

練ニ努メ 一応ノ陣地ヲ完成ノ自途ヲ入月未トセリ 當時兵力海軍二万五千 陸軍

二〇年六月セリタ軍港ヲ中心トシ海軍擔任 陸地戦陣地及反ト陸戦陣地攻防訓

練ニ努メ 一応ノ陣地ヲ完成ノ自途ヲ入月未トセリ 當時兵力海軍二万五千 陸軍

三、終戦前後の現地状況

(1) 航空部隊

陸軍部隊ハ終戦前ハ常例訓練ヲ行ヒ終戦時ハ航空兵力ハ戦爆合セ約百機ナリ

(2) 海上部隊

艦艇ノ残存モ六併セ二十隻前後ト思フ五、六月以後敵空襲熾烈ニシテ艦艇

連絡ノ木根ヲ断テ無線連絡ニ依ル「丹東」ル水道在泊ノ高雄ニ

対シテ同磁気標定ニ依リ攻撃ノ企図アリモ未達ニ終リ高雄ハ二二年十月

三日妙高ハ同年七月六日港外ニ於テ処分自沈セリ

(3) 陸上部隊

前述ノ通りナルモ陸戦ニ於テスマトラスマライ方面ニ兵力ヲ展開ガリテ戦ニ依リ

抗戦セトスルモ兵装一般ニ輕微ニ終戦直前ノ部隊編制水上特攻基地

被シテ



4

タリシ

特ニ泥鏡式準備感深シ 尚同方面ニ対スル敵大型機ニ依ル空襲閑散ナリキ

四、終戦後ノ邦人

九月十七日同方面日本降伏調印式施行 九月二十日以降邦人ハマヤンゴ湾附近ニバツク作成住居 陸軍関係ハ南「マライ」ニ集結 「バト」ニ上陸同

農場附近ニ於テ「キャンプ」生活ヲ続リ 昨ノ司令部ハ九月二十日高雄ニ移乘ス

「レニパン」ガ「島」ニ陸海混成ニオチ移住セリ 現在残存邦人ハ強制労働ニ

從事シソノ帰還期日不明ナリ 此ルヲ独立軍ト提携セルモノ併セニ千名位

内海軍ハ二百名位アリト思方セラル

五、現地進駐軍ノ状況

(1) 二十年八月二十八日「シンガポール」ニ工作部ニ進駐 九月二日「シンガポール」港ニ莫

西澤全集十三行算紙 (鈴木總)

0345

手 三

駐逐秘進駐せり (海軍) 駐逐秘進駐せり (海軍) 駐逐秘進駐せり (海軍)

(四) 英國中年以上ノ士官中ニ今次戦争以前ノ帝國海軍ヲ識レル者相尠アリテ

ソノ日本觀、ソノ帝國海軍觀、正鵠ヲ失テ好感ヲ與ヘザリ

概(終)

山打根

海軍

6/6

第九次多號輸送作戰

二一、九、一六 於第二復員局

岩永中尉ヨリ聽取

海軍

0347

第九次多號輸送作戰

元 驅逐艦卯月乘組 岩永中尉ヨリ聽取  
連絡先 吳局氣付特別輸送艦 杉

一 目的

レイテ島オルモック緊急輸送

二 編成

輸送船四隻（中型）

護衛艦

「夕月」

<sup>30dg</sup>

司令、澤村成二大佐（卯月、桐、驅潛艇四隻

計輸九ハ「マニラ」ヨリ

基地物件ヲ搭載途中分離「セブ」ニ向ヒ揚陸

成功

三 輸送人員並ニ物件

陸軍タマ兵團（四ヶ聯隊？）

陸戰隊 一ヶ大隊（指揮官 少佐）

兵器（砲、水陸兩用戰車、隊屬貨物等）

海軍

四 經過概要

一九、一二、九 前記編成ニテ「マニラ」出撃

一九、一二、一 「マモテス」海進入

一〇〇〇頃敵艦機約四〇機ト交戦 被害ナシ

一五〇〇頃敵艦機約六〇〜七〇機ト交戦

被害 沈没

TX1 火災、「パロンボン」北ニ擱坐

卯月及ハ人員救助ニ當ル

TX2 功 ハ夕月、桐ニテ護衛「オルモック」突入 一部成

一九、一二、二〇 〇一三〇頃救助作業中ノ卯月ハ敵魚雷艇二隻ノ攻撃ヲ受ケ魚雷三本命中 沈没

一九、一二、二二 時刻不詳 夕月、桐ハ敵巡洋艦ト交戦

夕刻 夕月沈没、TX2ノ内TX1ハ陸上迄突込ミ擱坐

物件 1、2、兵員全部ノ揚陸ニ成功

海軍

他ノEX1ハ狀況不明  
桐ノミ「マニラ」ニ引返ス

(備考) 夕月及ビ桐EX2ノ狀況ハ目撃セザルヲ以テ詳細不明ナリ

尙當時ノ狀況ヲ知悉シ居ルト思ハレル人

司令 澤村 成二 大佐

桐艦長 川畑 中佐

(終)

海軍

0350



三ノ里塩神ヲ七

(一)

十一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル中部太平洋(東經一五〇度以東海域)ニ於ケル海軍艦艇ノ損耗表

ノ損耗表

艦艇名

艦名	期日	時刻	場所	記	事
筑紫(測量艦)	一四	二一〇〇	「カビエン」港口	觸雷 最大速力一六節	
阿賀野	一一二	一〇〇〇	「ケゼリシ」泊地	觸雷 傾覆沈没	
五十鈴	一五	〇四五五	「ケゼリシ」泊地	潜水艦ノ雷撃ニ依リ航行不能	
長良		〇七〇〇	「ケゼリシ」泊地	小型機五〇機ノ來襲ニ依リ相當ノ損害	
大和	一二五	〇四二一	「ケゼリシ」泊地	潜水艦ノ雷撃ニ依リ右舷ニ三本命	
二十一掃海艇		〇五四五	「カビエン」港内	最大傾斜四度	
二十二		〇六〇七		小型機一二〇機ノ來襲ニ依リ大損	中破

外ニ「キルバード」方面作戦ニ從事セシ潜水艦六隻未歸還

累計

十四隻

(一) 十一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル中部太平洋(東經一五〇度以東海域)ニ於ケル商船ノ損耗

船名	期日	時刻	場所	記事
清澄丸	一二月三	一一二五	「カビエン」ノN 60	大型機一九機ノ爆撃ニ依リ航行不能「カビエン」へ曳航
武庫丸	一二月四	〇四三〇	N 152 40	潜水艦ノ雷撃ニ依リ沈没
龍王丸	一二月七	二一一〇	「カビエン」港口	觸雷ニ依リ沈没
日榮丸	一二月八	〇四三〇	「カビエン」ノN 180	大型機ノ爆撃ニ依リ航行不能「トラツク」へ曳航
日威丸	一二月一	〇四三〇	「カビエン」ノN 160	潜水艦ノ雷撃ニ依リ沈没
金耶丸	一二月二	〇四三〇	「カビエン」ノN 150	潜水艦ノ雷撃ニ依リ沈没
東亞丸	一二月五	一三三〇	「ボナム」ノN 80	潜水艦ノ雷撃ニ依リ沈没
日海丸	一二月六	一六四七	「トラツク」ノN 300	潜水艦ノ雷撃ニ依リ沈没
廉丸	一二月一	〇七一五	「カビエン」ノN 150	B-124ノ爆撃ニ依リ沈没
朝立丸	一二月五	〇四三〇	「カビエン」ノN 150	潜水艦ノ雷撃ニ依リ沈没
朝風丸	一二月五	〇四三〇	「カビエン」ノN 150	潜水艦ノ雷撃ニ依リ沈没
第七拓南丸	一二月九	一五三七	「カビエン」ノN 220	潜水艦ノ雷撃ニ依リ沈没
常島丸	一二月九	一五三七	「カビエン」ノN 220	潜水艦ノ雷撃ニ依リ沈没
昭業丸	一二月四	二三四四	「カビエン」	大型機ノ爆撃ニ依リ火災沈没
乾祥丸	一二月四	〇七〇〇	「カビエン」	潜水艦ノ雷撃ニ依リ沈没
天龍丸	一二月五	〇六四七	「カビエン」港口内	小型機一二〇機來襲ニ依リ沈没
昌寶丸	一二月一	〇九五三	「ボナム」東方海面	潜水艦ノ雷撃ニ依リ沈没

計 二十一隻

22  
 ◎我母艦部隊一九四四「二」一六「ト」ラツク「ラ」攻撃セシ時在泊中ノ輕  
 巡、艦逐艦名如何、損害程度、右艦艇ノ職術指揮官名

艦名	指揮官	被害ノ程度
阿賀野 (C)		當日ノ被害不詳 翌日「ト」ラツク「ラ」北方「六〇」海里ニテ潜水艦ノ雷撃ニ本「依」リ沈没
那珂 (C)		當日ノ被害不詳、翌日「ト」ラツク「ラ」ノ西 四五海里ニ於テ輪橋ヨリ前方ヲ失ヒ發煙中爾 後消息不能
香取 (C)		被彈大火災、後沈没
太刀風 (A)	海軍少將 清田孝彦	被彈、擱坐後沈没
文月 (A)		被雷撃、沈没
舞風 (A)		被彈沈没
追風 (A)		被彈沈没
時雨 (A)		被彈大破
春雨 (A)		
秋風 (A)		
野分 (A)		
松風 (A)		

0353

大東亞戦争功績概見表 昭和十八年八月一日  
至昭和二十年八月十五日

第三五二 設營隊長 海軍大尉 北川五一

區分	功績	期間	作戦行動概要	記事
十	一等	自十八年八月 至十八年十月	<p>編制(於佐世保) (佐世保鎮守府附屬部隊) 佐世保に於て遠敷準備(倉庫、器材、整備)及び隊員ノ急速練軍ヲ計ル共ニ佐世保對空警戒ニ任ズ。</p> <p>第四艦隊ニ附屬セシメ之ノ總出雲ノ各種資材ノ他物件ノ急速荷役ヲ行ハス。</p> <p>佐世保出雲、横須賀、館山、上ノ各由、三ノトクノ諸島ヲトウワシ島ニ遠出ラズ。</p> <p>輸送船行動中、乗船警戒兵ニ協力對空對潛警戒ヲ行フ。三ノトクノ諸島到着時對空警戒ニ任ジテ物件ノ急速陸揚ヲ實施ス。</p> <p>サトウワシ島ニ陸上航空基地ノ急速設置及建築ヲ行フ。引籠キ整備ヲ行ヒ傍ラ、三ノトクノ諸島ヲトウワシ島ニ防備警戒ニ任ジ三ノトクノ諸島地帯運搬業務ヲ行フ。</p>	<p>別誌「戦争経過概要」ニ示ス如ク極大ニ短期間ニ航空基地ヲ築キ三ノトクノ海軍ニ寄与シ海軍功績甚大ナリトシテ</p>
二	二等	自十八年十月 至十八年十二月	<p>輸送船行動中、乗船警戒兵ニ協力對空對潛警戒ヲ行フ。三ノトクノ諸島到着時對空警戒ニ任ジテ物件ノ急速陸揚ヲ實施ス。</p> <p>サトウワシ島ニ陸上航空基地ノ急速設置及建築ヲ行フ。引籠キ整備ヲ行ヒ傍ラ、三ノトクノ諸島ヲトウワシ島ニ防備警戒ニ任ジ三ノトクノ諸島地帯運搬業務ヲ行フ。</p>	<p>別誌「戦争経過概要」ニ示ス如ク極大ニ短期間ニ航空基地ヲ築キ三ノトクノ海軍ニ寄与シ海軍功績甚大ナリトシテ</p>

0354



	<p style="text-align: center;">二 子</p>
<p>自丈一五 至丈一五</p>	<p>自丈一五 至丈一五</p>
<p>又代行ス(詳細別紙) サトウワニ島航路其他ヲ永久滑走路ニ整備陸仕立 ト共ニ同島ノ防備整成ニ任ス(詳細別紙)</p>	<p>自丈一五 至丈一五</p> <p>一、サトウワニ島航路其他ヲ永久滑走路ニ整備陸仕立 スルト共ニ同島ノ防備整成ニ任ス。</p> <p>二、同島ニ第陸上警備隊、モトロツク分遣隊、陸守 守備隊送駐ニ際シ、送駐作業ニ協力ス。</p> <p>三、要保護は、工事費施</p> <p>四、モトロツク諸島送運輸代行者トシテ同島出入港 輸送船ノ全揚陸作業ヲ費施ス。</p> <p>五、モトロツク諸島、モトロツク島、航空其他改築命令ヲ 受ケ、輸送準備、輸送船急送後方ヲ費施スルト共ニ 同島ノ防備整成ニ任ス。(未製器械ニ係)</p> <p>六、モトロツク島(向ケトス)又由、モトロツク諸島出 港(輸送船、興津丸、日豊丸、長生丸)輸送船行動 中、興津丸、敵立、南島ヲ受ケ流没(戦死一五名 重要器械一八割ヲ喪失ス)</p>

0355

自十九、三三  
至十九、三五

自十九、三三  
至十九、三十一

自十九、三三  
至十九、三五

十九、五二

和太島到着(日豊丸及駆潜艇等)

同島之急速揚陸、遺棄整頓、次期設置機三備(資材、菓菜)揚陸位置、測量調査ヲ了了シ、同島防備警戒ニ任ス。

第四艦隊司令長官、命ヲ受テ熾烈ニ敵爆砲索ヲ冒シ、和太島第一航空基地之急速設置ニ任ズルト共ニ同島防備警戒ニ任ジ、未襲敵機ノ阻止索接ニ努ム(▽揚三月十日概成)

引続キ航空基地、整備強化ヲ了了ト共ニ同島守備部隊ニ協力、築城及現地、南段ヲ了一了ヲ以テ同島防備警戒ニ任ス(詳細別記)

空母ニ隻、戦艦ニ隻、大型巡洋艦四隻、駆逐艦四隻、掃海艇五隻ヨリ成ル敵機動部隊未成、艦砲射索ヲ了了ト共ニ敵機地航空部隊攻撃連合及艦上機数百機未襲銃爆索ヲ了了、之ト交戦之ヲ盤反索ノ松索退セリ。

本期皆戦死百五十九名



二 十

二 級 案

自十九、六一  
至十九、七、三

- 一、木十(島第三航空基地設艦橋、引続キ、艦橋強化、被弾滑走路、急速修繕、味方航空隊、追撃準備ヲテ、(基地設艦開始以來、十月末日迄、被弾計三百貫)
- 二、可左守備隊隊ニ協力ニ同島、防備態完成、築城ニ任ズル外、兵員、陸上銃中、特ニ對空銃中、急速修繕ヲテ、
- (十月末日迄、未衰機數八之機、七月三十一日迄、一機、墜、小型機五機破)
- 三、重要築城施設工事ヲ一通リ、(十對自)
- 第四工營、備隊ア、ワ、ク砲台据守工事(砲台位置、海、味方、期、三月)
- 同、ナ、リ砲台(糧四用)陸上移駐工事(期、三月)
- 陸軍砲兵隊、砲兵隊地施設工事(ニ、テ、テ)
- 同、歩兵隊、據守地、坑道施設工事(ニ、テ、テ)
- 第四工營、備隊、水際隊地、教、車、壕、壕、築、工事、(日)
- 三、可左守備隊、隊、及、第四海軍、々、需、給、ホ、テ、(派遣隊ニ協力、同島、守、用、糧、食、生産ニ從事、各上、之、民、生、産、業、者、生、産、宏、展、指、導、ヲ、テ、)

0357

二

十

二

級

等

十九年  
十月  
二十日

自二十一年  
至二十五年

(延作業員六〇〇〇人開墾面積六〇ヶ歩)  
本期当中、戦死十九名

一、和太(島)第二航空基地設営後、引続キソノ整備強化、被弾滑走路ノ急速修理、味方航空部隊、遠駐準備ヲナス共ニ、所在守備部隊ニ協力シ、同島ノ防備増成、築城、陸上銃斗ニ急速疎率ニ任ズ

二、所在守備部隊及第四海軍々々需給、亦ナラズ、遠征ニ協力、同島ノ糧食ノ生産ニ從事、外、民皆生産業者ノ生産管理指導ヲナス

三、和太(島)防備部隊指揮官、内藤大佐(第四航空隊隊長)ノ指揮ヲ受ケ、同島ノ防備増成、築城及教育訓練ニ任ズ(守備地ニ了見、山及第一航空基地)

四、和太(島)第一航空基地ノ整備強化、被弾滑走路ノ急速修理、味方航空部隊遠駐準備ヲ

<p>二十</p>	
<p>二級、業</p>	
<p>自宗六一 至千八五 二千八五</p>	<p>千二六</p>
<p>本年度前期二同 本期当中、戦死四名 大東亞戦争終戦</p>	<p>三、所定予備隊隊員及第四艦隊、第四海軍ヲ 需給和石、運送隊ニ協力、同島ノ軍用糧食 ノ生産ニ從事スル外、民官生産業者ノ生産 ハ、管理指導ヲ受ケ 敵基地航空機編隊ヲ激突シ、此一機ヲ降地 前四〇〇米地奥ニ墜落シ、暗探者、ソノ他、重要 機密圖書、兵器ヲ鹵獲シ、敵情偵知ノ重要 資料ヲ獲得ス。 本期当中、戦死十五名</p>